

豊丘村長 下平喜隆 様

平成 28 年度 未来とよおか次世代会議 政策提言書

未来とよおか次世代会議では、理想とする村の将来像を実現するためのアイデアを創出するため、1年間検討を行ってきました。

検討で得られた結果を、政策提言書としてまとめ、ここに提言します。

未来とよおか次世代会議 6つの提言

1. 観光 PR プロジェクト
2. 移動困難者解消プロジェクト
3. 豊丘いいものマルシェ
4. 銀座 NAGANO 出品プロジェクト
5. とよおか版 街バル「リッチヒルバル」
6. 豊丘村「菜の花プロジェクト」

平成 29 年 3 月 28 日

未来とよおか次世代会議

観光 PR プロジェクト

現状分析

長野県は移住したい県ナンバーワンであるが、南信州、豊丘村は都会の人たちが抱く信州のイメージと重なるところが少なく、観光や移住につながっていない。

しかしながら、丘から見る中央アルプスと滔々と流れる天竜川の美しさ、都会の人たちが羨む空気、自然、食など、それとは違う、特色ある魅力が溢れている。このことを我々も認識し、対外に PR することが重要である。

企画の概要／コンセプト

当地域の魅力を、地域の住民が再認識し、地域に誇りを持つことで、「地域を発信」する機運をあげる。素晴らしい地域資源の活用を図るため、その主体となる組織を設置し、総合的かつ戦略的、継続的に地域の PR を行うことで、地域の認知度を上げる。

具体的な施策

1. 手書き風イラストマップの制作
村民からのビュースポット提案とイメージが膨らむ観光客目線のマップ
2. パンフレット設置場所の拡大
高速道路 SA や飯田 IC 周辺の店舗など地域の玄関口への観光パンフ設置
3. デジタルコンテンツ化と広報
パンフ等のデジタル化による WEB や SNS との連携。豊丘村 CATV コンテンツの YouTube 活用。村 PR 動画制作。
4. イベント等の事後 PR の徹底
事後 PR が次のイベントの最高の PR
5. 日本版 DMO（観光地経営）の設置

得られる効果

1. 道の駅開設にあわせ、観光に対する村民意識とおもてなし意識の向上。
観光客目線のマップによる来村したいと思う意識の醸成。
2. パンフ等の露出度の向上による村の知名度の向上と来村意識の醸成
3. 観光や地域情報を得やすい環境の整備と「口コミ」による知名度アップ
4. リピーターの確保と新規来村者の増加。魅力あるイベントの発信による村のイメージアップ。
5. 総合的、戦略的、継続的な事業展開の推進による来村者の増加。

予算

1. 制作費 2,000 千円（1 万部）
- 2～4. 当面ゼロ予算

スケジュール

H30 道の駅開設後の展開を見込み、1～4 の H29 着手と 5 の H29 研究

目標

対外的認知度、イメージを向上させることで、来村者、移住者の増加を図る。

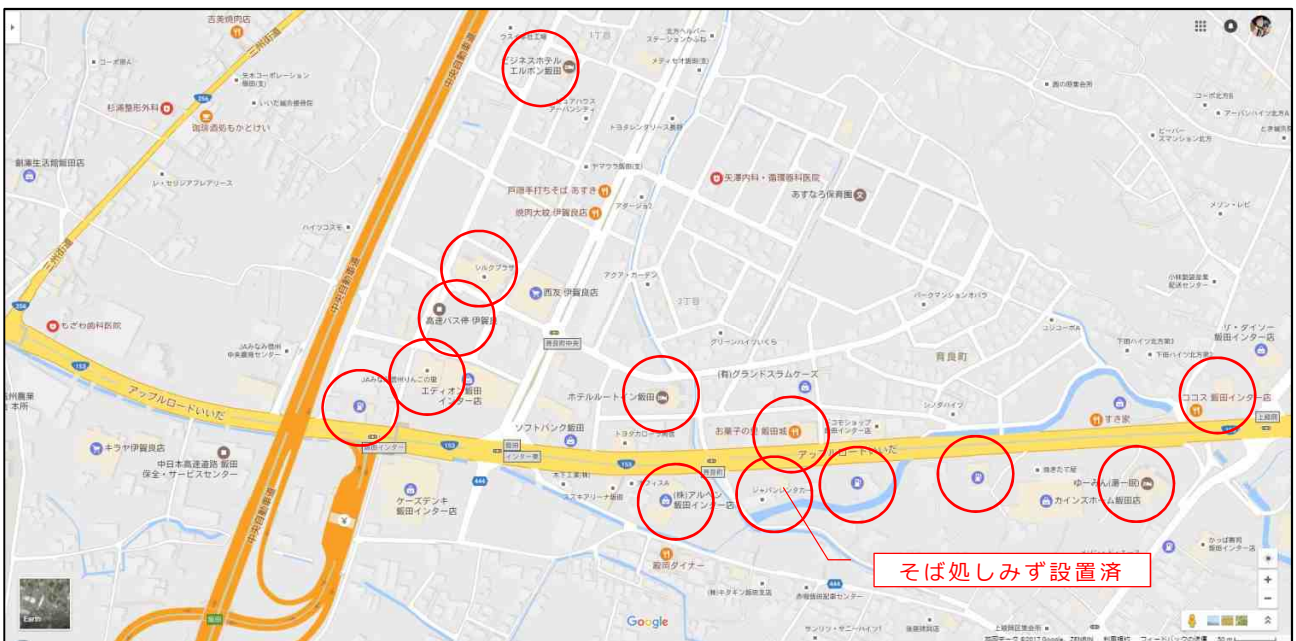
※1.については、当会議でビューポイントの選定作業に取り組み済。

※2.については、当会議により飯田 IC 近辺の飲食店 1 店にパンフを設置済。

(例) 手書き風イラストマップ



(例) パンフレット等設置場所



豊丘村公式ホームページ



豊丘村公式 YouTube



移動困難者解消プロジェクト

現状分析

これまでの農業観光に加え、ワーキングホリデー、コワーキングスペース事業を展開し、来村者の増加を促進しているものの、村へのアクセス、村内移動は自動車以外無い状況である。また、自家用車を持たない県外等からの来村者は、高速バスを利用することが通常考えられる手段であるが、最寄りの高森バス停からの移動はタクシーとなり移動経費に大きな負担を強いている。移動手段、経費とも来村者の負担が大きく、来村手段や村内移動の困難な状況を解消することが求められる。

企画の概要／コンセプト

来村者の交通移動手段の確保と経費の軽減を図ることにより、村へのアクセス、村内移動環境を改善させ、さらなる来村者の増加を図り、観光の振興、移住者の増加、企業等の拠点設置へつなげる。

具体的な施策

1. ワンコインタクシー制度創設
福祉タクシー制度に似た制度。高森バス停から道の駅（その他村内拠点）への移動に係る経費を村が負担し、来村者の負担を軽減する（来村者負担額1乗車500円を想定）。
2. カーシェアリング設置
民間が展開しているカーシェアリングステーションの道の駅への設置
3. レンタカー設置
道の駅への民間レンタカーの設置

得られる効果

1. 来村者の増加と観光PRツール
2. 村内、域内移動手段の確保と道の駅来場者数の増加。観光戦略の新たな展開。
3. 村内、域内移動手段の確保と道の駅来場者数の増加。観光戦略の新たな展開。

予算

1. 片道2,500円→村負担2,000円/台
2,000台×2,000円=4,000千円
- 2~3. ゼロ予算

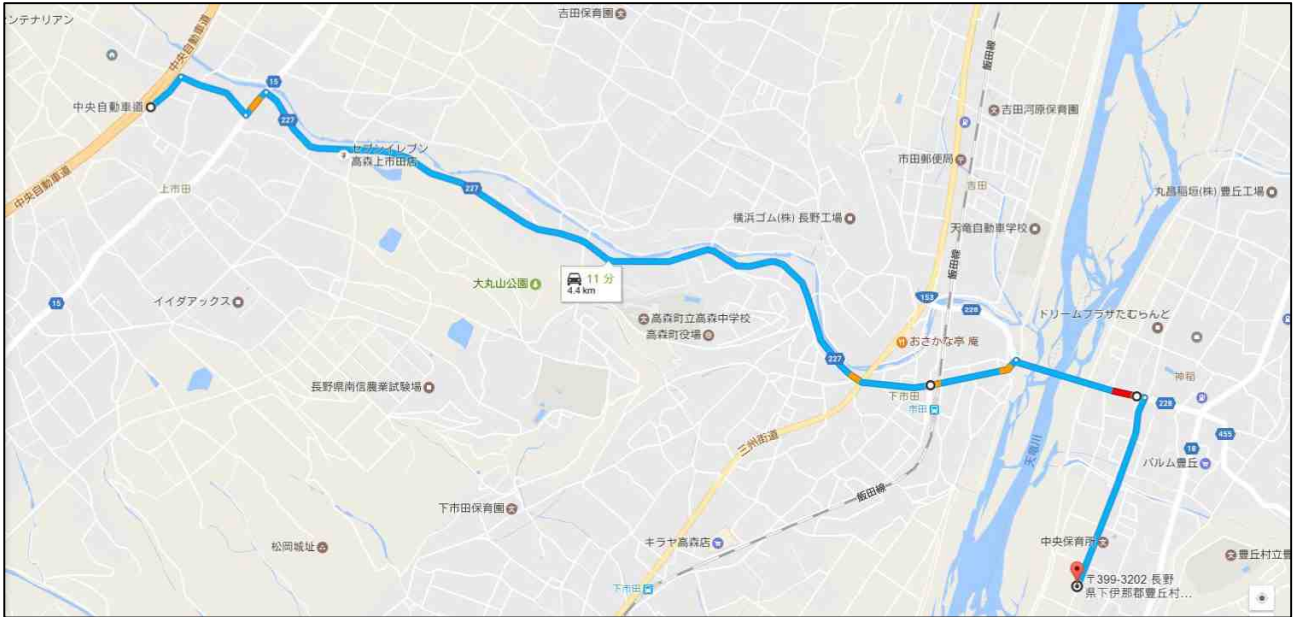
スケジュール

H30道の駅開設後の展開を見込み、1のH29調査研究と2~3の企業誘致活動

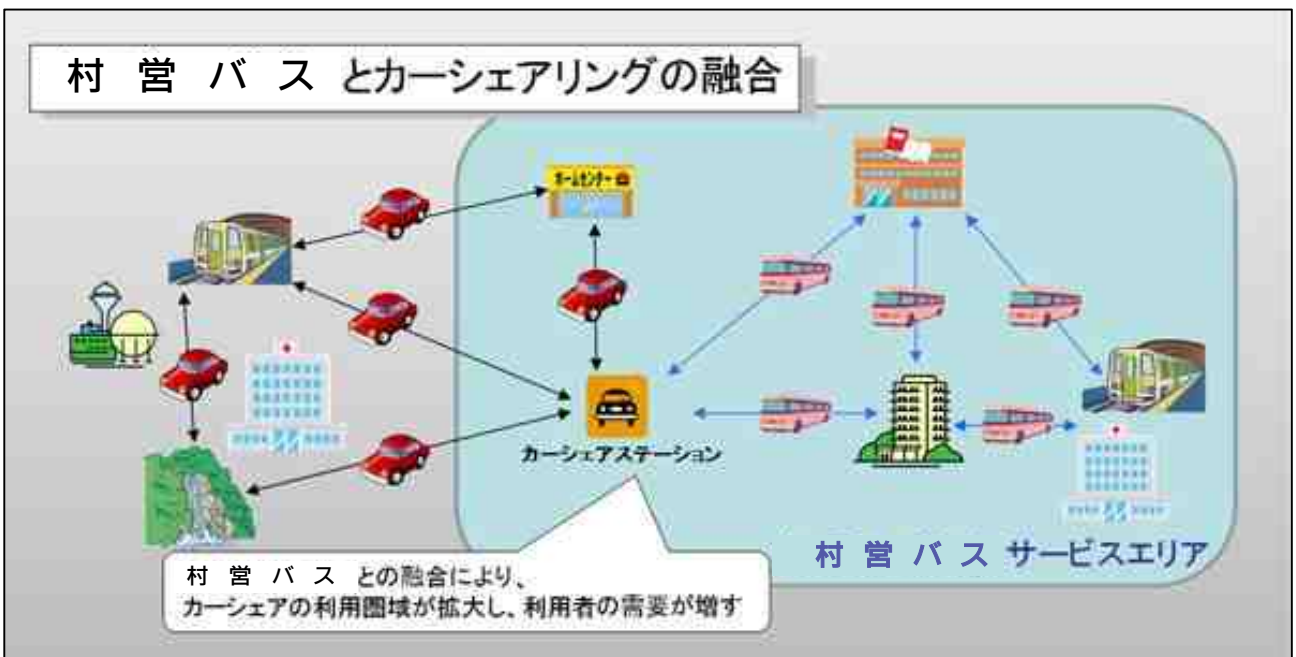
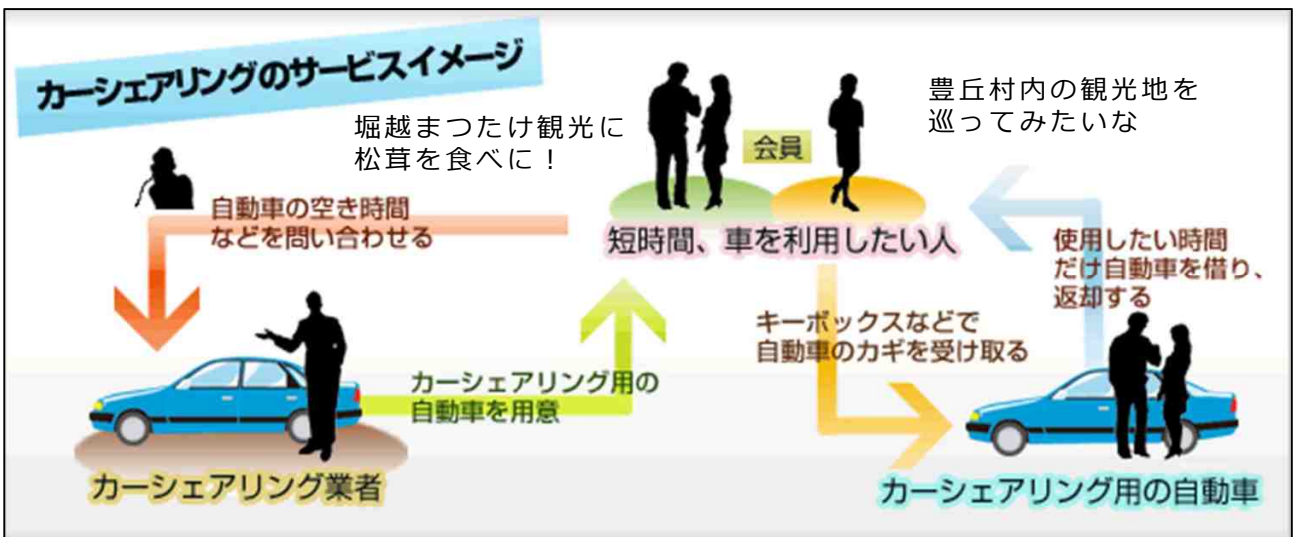
目標

アクセス環境や村内交通環境の改善による来村者の増加と観光戦略の発展

高森バス停～道の駅 4.4km タクシー料金 約 2,500 円/円



カーシェアリング活用例



豊丘いいものマルシェ

現状分析

豊丘村内では、農産物はもちろんのこと、農産加工品やハンドメイド品など「ものづくり」において、幅広い年代層から、クオリティの高い作品「いいもの」が産み出されているが、これらを発信したり、販売につなげたりする環境（風土）や仕組みが無く、素晴らしい地域資源が埋もれた状況となっている。

企画の概要／コンセプト

豊丘村産の「いいもの」が発信できる環境や仕組みを整備することにより、生きがい創出、販売・起業への発展を促すとともに、それにより、「ものづくり」「いいもの」を通じた地域間交流を展開し、人と物の交流の増加と活性化を図る。

具体的な施策

1. 豊丘いいものマルシェ
道の駅において、定期的に「いいもの（以下、作品）」を販売できる市場「豊丘いいものマルシェ」を開催。
2. いいものレンタルボックス
気軽に作品等を委託販売できるレンタルボックスを道の駅に常設。
3. いいものチャレンジショップ
道の駅内にお試し販売コーナー「いいものチャレンジショップ（お試しショップ）」を開設。
4. いいもの地域間交流
特に優れた作品については、全国の道の駅で取り扱う仕組みを作るとともに、全国の逸品を委託販売する。

得られる効果

- 優れた作品について、地域コミュニティブランド＝豊丘村認定ブランドへの展開を図ることで、地域のイメージアップと儲かる仕組みを創出。
- 出品機会の確保による、村内の優れた作品の掘り起しとともに、販売機会の確保による、作り手の生きがいの創出と技術の研鑽促進
- チャレンジショップ（お試しショップ）の開設により、起業への発展、増加が見込まれる。
- 「ものづくり」「いいもの」を全国の道の駅と交流するひとつのツールとして活用することで、人と物の交流の増加が見込まれる。

予算

ゼロ予算（運営経費のみ）

スケジュール

H30 道の駅開設後の展開を見込み、H29 に仕組みづくりを整備する

目標

豊丘村認定ブランド創出による地域のイメージアップと地域が儲かる仕組みづくり

※「豊丘村の味発掘プロジェクト」として cookpad にページを開設し市田柿メニューを掲載
※「レンタルボックス」を喫茶 en にて実施

豊丘いいものマルシェ（イメージ）



(例) チャレンジショップ



(例) レンタルボックス



銀座 NAGANO 出品プロジェクト

現状分析

豊丘村加工組合かあちゃんの店で作られる商品は、地元産の農産物のみを使用し、「味」と「無添加」にこだわったもので、高く評価されている。また、雑穀研究会で作られる雑穀ポップバーは、信州の味コンクールで銀座 NAGANO 賞を受賞しており、銀座 NAGANO での販売が要望されている。優れたものでありながら、埋もれた状況であり、視野を広げた展開が求められている。

企画の概要／コンセプト

農産加工品等の販路開拓を図るため、東京をターゲットとし、発信力のある銀座 NAGANO へ出品できる商品パッケージを開発する。

具体的な施策

1. 商品パッケージ開発
雑穀ポップバーについては、商品化されていないため、梱包、パッケージの新規開発を行う。また、農産加工品の漬物、ジャムについて、銀座 NAGANO をターゲットにしたパッケージ開発を行う。
2. おしきせセット開発
日本酒 牡丹獅子と農産加工品 漬物をセットにした「おしきせセット」を喜久水酒造と豊丘村加工組合、交流センターだいちと共同開発する。また、賞味期限の長い市田柿やドライフルーツ等のセットを研究する。
3. 両事業とも未来とよおか次世代会議が主体となって推進する。

得られる効果

1. 現在、銀座 NAGANO に豊丘村関係商品は無い状態であるため、ここで商品販売することで、さらなる販路の拡大と村の PR、イメージアップが図られる。
2. 日本酒と漬物の相性の良さを活かしたパッケージを開発することで、お互いの相乗効果により、販路拡大、販売量の増加が期待できる。また、民間とのタイアップにより、展開力や販売力等大きな効果が期待できる。

予 算

1. 300 千円
2. 調査中

スケジュール

両事業とも H29 中の完成を目指す。

目 標

豊丘村農産加工品の販路拡大と販売量の増加による儲かる農業の創出

銀座 NAGANO 雑穀コーナー



雑穀ポップバーイメージ

おしきせセットイメージ



とよおか版 街バル「リッチヒルバル」

現状分析

「豊丘村には飲食店が少ない」「減少している」と言われており、村民を中心に店舗の増加が望まれている。一方、「飲食店をやってみたい」という声も聞こえるが、規模の小さい村での商いは不安であり、開業に至らない状況である。地域全体で飲食店を応援する機運を高めることが求められている。

企画の概要／コンセプト

まず村民が、村内の飲食店を積極的に利用し応援するという機運を醸成するため、村内飲食店を巡る「とよおか版 街バル リッチヒルバル」を開催する。また、村外からの利用も促し、飲食店を知ってもらうことで、顧客の拡大につなげる。

具体的な施策

1. とよおか版 街バル「リッチヒルバル」開催
 - 豊丘村商工会と未来とよおか次世代会議が協同して開催。
 - 参加者は3枚つづりになっているチケットを購入し、村内の飲食店などのイベント参加店舗を食べ歩き、飲み歩きする。チケット1枚につき1,500円相当の飲食ができるものとし、1セット3,000円を100セット（チケット300枚）販売する。
 - 参加店舗（10店舗想定）では1枚のチケットと引き換えにドリンクとつまみを出す（1,500円相当）。

得られる効果

- 開催日1日450,000円の消費効果
- 村内商業の活性化と飲食店の活性化
- 村民の地元商店等を利活用しようとする意識の向上
- 村内外の顧客の拡大と村内への交流人口の増加

施策の発展（オプション）

- 当日の飲食店の混雑状況はSNSを活用して周知を図る。
- 当日、飲食店を繋ぐ定期巡回バスを実施する。

予算

- チケット補助として1枚500円、合計150,000円。
- ポスター等広報活動費150,000円。

スケジュール

H29中の実施を目指す。

目標

村内飲食店の増加と地域商業の活性化

街バルとは

街バル (Machibar) とは

”街 (MACHI) + バル (スペイン語のBAR)

「街バル (Machibar)」とは、地域・街の活性化と飲食店の活性化を目的として地域・街が密着して開催するバルを食べ歩き・飲み歩きするグルメイベントです

街バルは、数百人～数千人の規模で全国で開催され、特に地方では、地域活性化、町おこしの一環としても注目されており、開催地域も増え開催規模も大きくなってきています

街バルの一般的な開催形式としては、街バルのイベント参加者は通常3～5枚つづりになっているチケットを購入し、スペインバルや居酒屋などのイベント参加店舗を食べ歩き飲み歩きます

通常、数十店舗以上のスペインバルや居酒屋などの飲食店が参加しており、参加店舗では1枚のチケットと引き換えにドリンクとタパスが出てきます

街バルのイベント参加店舗は、イベント用に特別のメニューを用意しており、1回の参加で様々なお店と料理を食べ歩き飲み歩きできる魅力的なグルメバルイベントです”

(例) リッチヒルバル

とよおかまちバルとは
地域・街・店をコンセプトに、
豊岡で食べ歩き飲み歩きして
様々な飲食店を楽しむ
大規模なグルメイベントです。

1チケット で 1バルメニュー
(1ドリンク+1フード)

丘 豊 (とよおか)の街で、はしごしませんか。

豊丘村「菜の花プロジェクト」

現状分析

豊丘村は、リニア中央新幹線の開業効果による地域振興が期待されているが、リニアを運行するためには大量の電力が必要とされている。現在、電力の9割弱が火力発電により産み出されており、温暖化ガスの排出による環境負荷が懸念されている。リニア開通により一層の環境負荷が危惧される中、カーボンニュートラルへの取り組みが必要とされている。

企画の概要／コンセプト

リニア中央新幹線の効果が期待できる豊丘村として、環境負荷を軽減させる取り組みと資源循環サイクルの構築を図るとともに、その取り組みを通じて地域振興を図る。

具体的な施策

【第1段階】

1. 廃食用油 BDF 化事業
家庭等から出る廃食用油（植物油）を収集し、BDF（バイオディーゼル燃料）精製業者へ引き取ってもらい、精製された燃料を納入する。
2. BDF 活用事業
納入した BDF は、公用車などの燃料として使用する。

【第2段階】

3. 遊休農地「菜の花畑」化事業
遊休農地対策として菜種油精製を目的とした菜の花の栽培に取り組む。
4. 菜種油精製事業
菜の花を精製業者へ引き取ってもらい、精製された燃料を納入する。

得られる効果

1. カーボンニュートラル
大気中に存在した二酸化炭素を吸収してできた植物油を BDF 化することで、吸収した CO₂-BDF 燃焼による CO₂=±0 となり、カーボンニュートラル効果が得られる。
2. 遊休農地対策
菜の花栽培は比較的簡単とされており、栽培面積を大きくすることが期待できるため遊休農地対策につながる。
3. 生きがいづくり
作業が容易であり、一定の収入が期待できるため、高齢者の生きがいづくりや健康寿命の延伸（医療費削減）が期待できる。
4. 観光地創出
一面に黄色の花が広がる菜の花畑は、観光地として活用できる。

予 算

- ・ BDF 化燃料買取価格 120 円 / ℓ
- ・ BDF 使用公用車購入（一般のディーゼル車の約 10 万円高）
- ・ 精油用菜の花買取価格 1.2 万円 / 60kg
※収穫量 223kg / 10a

スケジュール

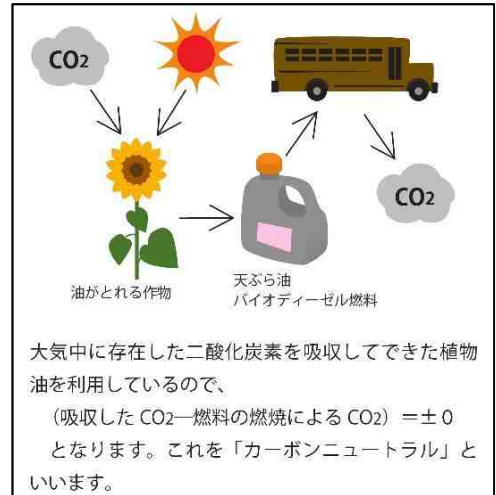
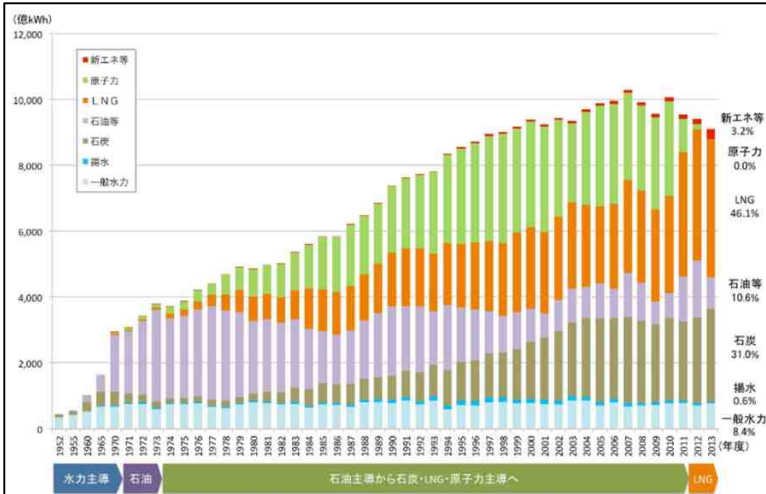
- ・ 廃食用油 BDF 化～BDF 活用事業については、他の自治体での先進事例が多く、着手しやすいため、第1段階として取り組む。

目 標

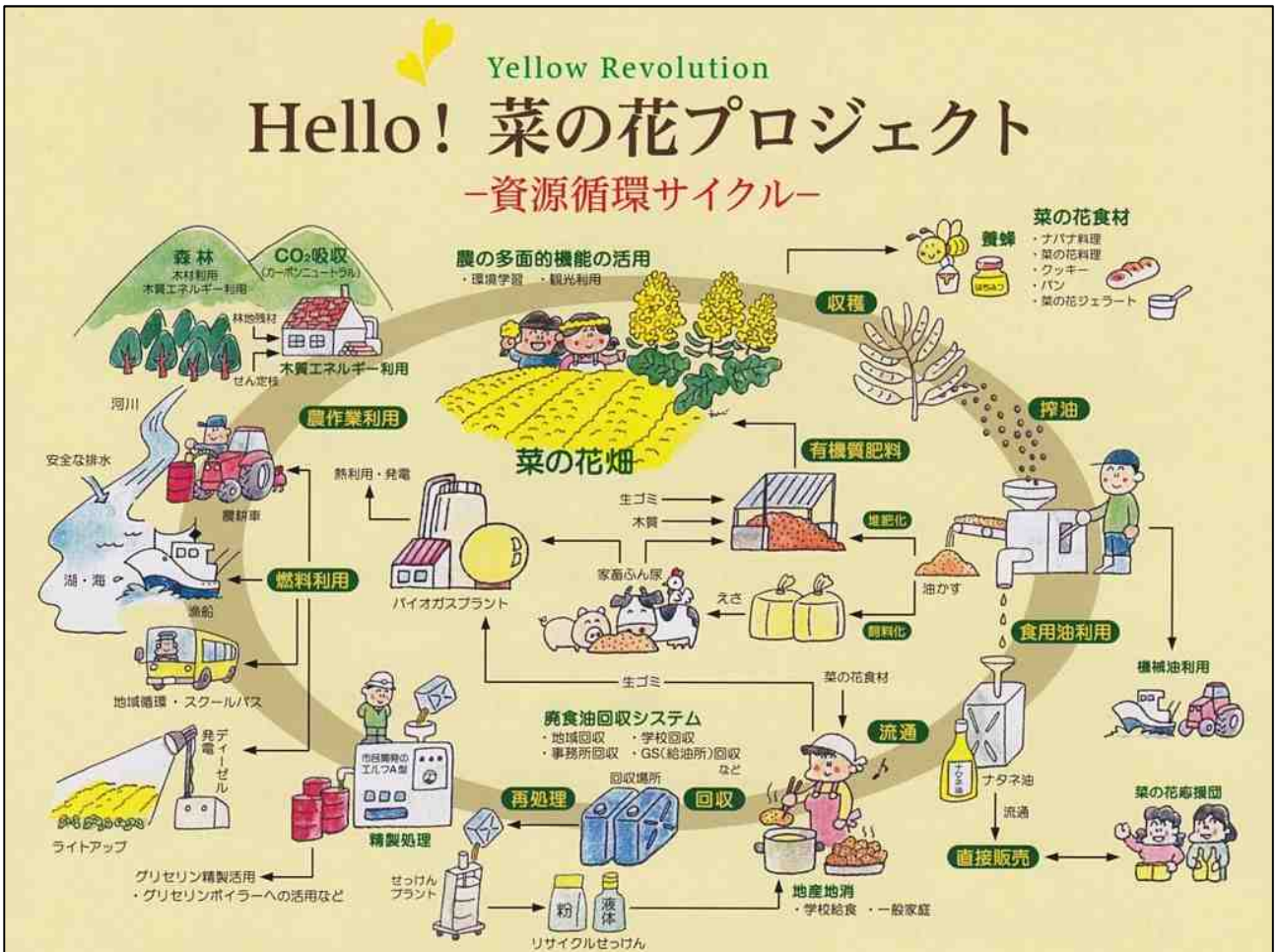
循環型社会の構築による総合的な地域振興

カーボンニュートラル

日本のエネルギー・発電の供給量割合



菜の花プロジェクト概要図 (例)



次世代会議開催状況

	開催日	場所	参加人数
第1回	平成28年06月12日(日)	役場食堂	11人
第2回	平成28年07月03日(日)	喫茶 en	10人
第3回	平成28年07月31日(日)	喫茶 en	9人
第4回	平成28年09月04日(日)	喫茶 en	12人
第5回	平成28年10月19日(水)	とよテラス	6人
企画会議	平成28年10月27日(木)	白 星	5人
第6回	平成28年11月02日(水)	とよテラス	6人
第7回	平成28年11月27日(日)	喫茶 en	6人
第8回	平成28年12月18日(日)	喫茶 en	7人
第9回	平成29年01月09日(月)	喫茶 en	5人
第10回	平成29年02月05日(日)	役場会議室 1	8人
第11回	平成29年02月19日(日)	役場会議室 1	4人
第12回	平成29年03月05日(日)	役場会議室 1	4人
合計	開催回数 13回		93人